

救護棟カルテ No. 23



皆さんは「野生動物のリハビリ」と聞いてどんなイメージがありますか？
ヒトと同じかんじかな？まったく違うのかな？
動物たちのがんばりをぜひ知って下さい。



野生動物のリハビリってどんなかんじ？

ケガ等をした野生動物は治療が済むと、野生に戻るためリハビリを行います。

リハビリは、野生で生きるために必要な体力や筋力、警戒心を取り戻すために必要不可欠です。屋内外のリハビリ施設で、動物たちはもうひと踏ん張りがんばります。

リハビリ施設の一例



哺乳類のリハビリ施設
高さがあり、地面の下はコンクリートになっている。
大ジャンプするキツネや穴掘り名人のアナグマに適應する。
タヌキがリハビリ後、野生復帰！



高さを確保した大型リハビリ施設
おもに猛禽類に適應する。
ヒトとの距離も充分とれる広さで、飛翔(上昇や旋回飛行)ができる。



室内の小鳥のリハビリ室
ハト大～スズメ大の小鳥に適應する。
ハクセキレイがリハビリ後、野生復帰！

リハビリの大まかな流れ

- ①動物の状態や習性に合わせて、使用する施設とその室内のレイアウトを考える
- ②動物を出して、そこが個体に合っているかモニタリング (モニタリングについてはNo.18をご覧ください)
- ③動物の活動の仕方によってレイアウトを変えて負荷をかける

基本的にその動物の状態に合わせてリハビリは行われますが、時にはこんなリハビリも試んでいます。

下半身麻痺で起立できない個体に治療と並行して、患部のマッサージやヒト用の低周波治療器を使っての電気刺激や脚の屈伸運動をして刺激を与え、リハビリを行いました。

また、脚の負担の軽減を図る、脚を使うことを意識させるなどのリハビリとして、体を吊り上げたり、歩行補助器を作って脚の回復を図るリハビリもしてみました(吊り上げはNo.19で取り上げています)。



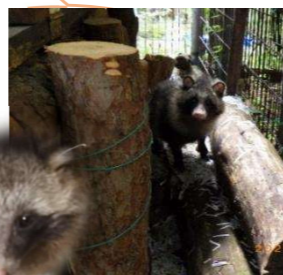
下半身麻痺の子ギツネ

補助器に乗せてマッサージや屈伸運動をして回復を図った。良くがんばってくれた

〇〇〇な、お鼻のタヌキさん

9月に郡山市で、交通事故に遭った子タヌキが保護されました。

珍しいことに、本来黒いはずの鼻がピンク色をしていました。成長するにつれ黒っぽくなるかと思いきや、かわいいピンクのまま。一見、地味な体の色は自然の中で保護色となって自身を守りますが、目立つと外敵に狙われやすくなるなどリスクになります。10月、元気になって野生復帰しました。目立つハンデを持って生きていかなければなりません、無事に冬を越して命を繋いでほしいと願います。



あだたら 森の回覧板

Vol. 23 冬号

ユリカモメ



昨年は、多くの団体様、来館者様にお越しいただき心から感謝申し上げます。今年も環境学習の場として、さらなる展示の拡充を行っていきたくと思いますので、よろしくお願いいたします。

辰年

今年もよろしく
お願いいたします。



リンドウ

野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等を行っており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。

発行：福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67
電話 0243-24-6631
開館時間 9:00~17:00
休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)



リンドウってどんな花？

「辰年」にちなみ、リンドウ(竜胆)について紹介します。

リンドウは多年生植物(2年以上同じ株から花を咲かせる植物)で、山や丘陵地の草原などに見られます。花は9月～11月頃に咲き、晴れた日に太陽に向かって開花します。



【薬草としての竜胆】

“竜胆”という名前は、中国で代表的な生薬である熊胆よりも苦いことから名付けられました。生薬名は竜胆(りゅうたん)と呼ばれ、根の部分は苦味健胃薬として用いられています。また、消炎、解熱等の効果があるとして、漢方薬に配合されます。

テレビ番組などで罰ゲームとして飲まれることのあるセンブリも実はリンドウのなかまで、リンドウと同じく苦味健胃や整腸の効果があるとされています。

リンドウは、野生生物共生センターがある県民の森でも生育しているので、散策される際はぜひ探してみてください。

センブリの花 リンドウと同じく、丘陵地や山地で生育しており、花は白色で、淡紫色の脈が5本あります。

令和5年度ツキノワグマ目撃情報まとめ

令和5年度は、県内だけでなく東北地方全体でクマの目撃や人身事故に関するニュースが相次ぐ年になりました。冬号では、実際どのくらいクマの目撃があったのか紹介します。

図1は、福島県警察のデータ(R3～R5)を活用して目撃件数をグラフにしたものです。令和5年4月は、例年並の目撃数でしたが、5～6月以降、目撃数が増えていることがわかります。理由としては、昨年はツキノワグマのエサとなるどんぐり(図2)が豊作だったため、子グマが多く生まれ、山にいるクマの数が増えたことが要因の1つといわれています。

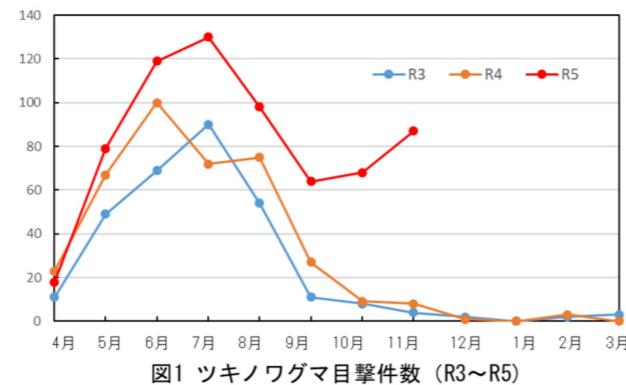


図1 ツキノワグマ目撃件数 (R3～R5)

また、例年、夏から秋にかけてクマの目撃数が減少傾向になりますが、今年は目撃数が減少せず秋にかけて増加しました。今年の秋はどんぐりが凶作だったため、エサを求めて人里に出没する数が多くなったと考えられます。

ツキノワグマはブナなどの堅果の豊凶が出没と強く関係しているため、クマだけでなく、どんぐり等が生育する自然環境にも目を向けていきたいですね。

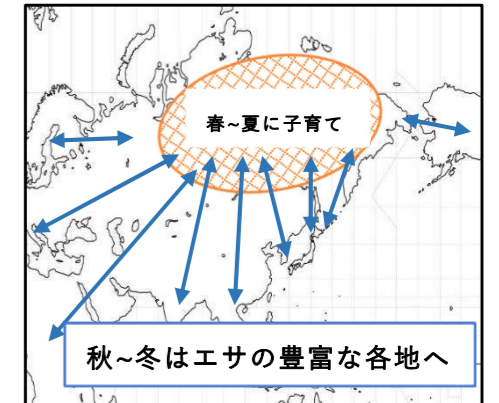


図2 ツキノワグマの好物のどんぐり

世界の高病原性鳥インフルエンザ発生状況はどうなってるの？

日本では、今シーズン(2023年秋～2024年春)も野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。検出されたウイルスは、農研機構のゲノム解析の結果、2021年および2022年シーズンに日本で検出されたウイルスと同じ遺伝子型に分類されるとわかりました。国内で3シーズン連続して同じ遺伝子型が確認されたのは初めてです〔1〕。このことからどのようなことが考えられるのでしょうか。

Vol.19でも述べたとおり、鳥インフルエンザウイルスは、本来の自然宿主であるカモ類が渡り鳥として世界各地の越冬地へ分散することで世界中に拡がると考えられており(図)、日本には夏季はウイルスが存在せず、渡り鳥によって毎シーズン新たに侵入するとされています〔2〕。しかし、欧州・米国・カナダでは近年、通常なら渡り鳥がシベリア等の営巣地に帰る夏季になっても、鳥インフルエンザ感染事例が継続的に確認されており、明確な感染シーズンの区分ができない状況となっています〔2〕。つまり、これらの地域では夏季にもウイルスがとどまっていた可能性が考えられます。日本でも季節にかかわらず常に鳥インフルエンザに注意していきましょう。



図：冬の渡り鳥のルートイメージ

〔1〕農研機構プレスリリース (https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niah/160351.html)

〔2〕2022年～2023年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査報告書(2023年7月24日、高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム)



2024年のカレンダーができました！！



2024年のカレンダーは卓上カレンダーです！
ご来館されますと、カレンダーの台座を木の実で工作できます♪台座は写真やメモをはさむことができ、来年以降もスタンドとして再利用しましょう。自分流にデコって卓上をオシャレにしませんか？

※カレンダーセットは数量限定です。(1家族1組)



来年のカレンダーの主役を飾るのは?!

センターではカレンダーや館内を飾る写真のご提供をお待ちしております。メールにて kansou-yasei@pref.fukushima.lg.jp までお送りください。